

につぼん丸「秋の味覚クルーズ」乗船記

明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部

上杉恵美

少し遅くなりましたが、11月7日～9日のにつぼん丸「秋の味覚クルーズ」の乗船報告をさせていただきます。

今回の乗船は、久しぶりのクルーズを楽しみたいという個人的な希望だけでなく、現在大学で担当している「クルーズビジネス研究」の授業において、国内クルーズ再開後の最新状況を伝えたいという目的、また、学生たちに船で働くことについての理解を深めてもらうため、クルーの職務内容や職場環境、仕事のやりがいなどについて、できるだけ具体的に説明したいという目的がありました。

乗船中に行ったクルーの皆様へのインタビューは、商船三井客船の山口社長から事前にご承諾を得てご協力いただきました。

インタビューをまとめた授業資料は、後日クルーズビジネス研究の授業内容をご報告する機会があれば紹介させていただくこととして、この報告では、につぼん丸の新型コロナウイルス感染防止対策と、「秋の味覚クルーズ」の2つについて書きたいと思います。

1. 新型コロナウイルス感染防止対策

コロナ前と後で変わったおもな事柄は、次の通りです。

(1) 乗船前の手続き

① PCR 検査

検査会社から送られてくる検査キットを使い、自分で検体を取って返送する。

※検体となる唾液を所定量採取するのは予想より大変でした。(あとで、梅干を目の前に置いて取るとよい、ということを知りました。)検査結果は数日で判明しますが、検査会社のウェブサイトでマイページ登録をすると、検査結果が出た時点でメール通知が届き、マイページにアクセスして結果を知ることができます。

② 健康状況の確認

郵送された健康質問票に事前に記入する。

(2) 乗船当日

① 横浜港大さん橋国際客船ターミナルでの乗船手続き

- ・客室タイプごとに時間をずらして集合する。
- ・検温を受け、本人確認書類を提示し、健康質問票を提出する。

②船のエントランス

船長は出迎えをしない。(運航部門クルーは万々に備えて乗客との接触を避ける)

③出港セレモニー

- ・紙テープ投げはしない。
- ・音楽の生演奏とシャンパンの振る舞いはしない。

(3)公共スペース



リドグリル入り口



レストラン「瑞穂」

- ・エレベーター乗降口、各公室・施設入り口など船内各所にアルコール消毒液を配置し、乗客にこまめに消毒を行うよう促す。船内施設や手すりなど人の手が触れる場所は、クルーが定期的に消毒を実施する。
- ・席と席の間隔を十分にあげる。椅子やソファに着席禁止のカバーを掛ける。
- ・客が席を立った後、クルーがすぐにテーブルと椅子の消毒を行う。

(4)食事・喫茶

- ・レストランスタッフはフェイスガードとマスクを着用して接客する。
- ・乗客は用意された「抗菌マスクホルダー」でマスクを一時保管することができる。
- ・テーブルには番号と QR コードが記載されているプレートが置かれており、接客スタッフは乗客が着席すると、乗客の乗船カードの情報とプレートの QR コードをスマホで読み込み、記録する。
- ・レストラン「瑞穂」の朝食は、ビュッフェではなく和・洋の定食から選ぶ。
- ・誕生日などのお祝いサービスは、船長ではなくゼネラルマネジャーが行う。

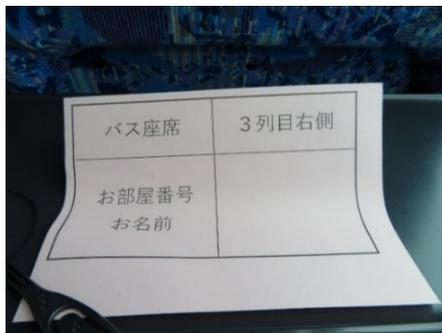


レストランのテーブルに置かれた QR コードのプレートとマスクホルダー



レストラン「瑞穂」の洋定食

(5) オプションツアー



ツアーバス乗車時は、常に事前に指定された席に座り、万一の場合あとで追跡できるように部屋番号と氏名を座席表に記入する。

以上のように、船内やツアーバス内では徹底した感染防止対策が取られていました。「お客様が席を立たれた途端に消毒作業をお見せすることは大変心苦しいです」と言うクルーもいましたが、乗客にとってはそのような場面を目にすることにより、かえって安心感を抱くのではないかと思います。

2. 「秋の味覚クルーズ」体験記



前述のとおり、横浜港出航時には紙テープ投げや音楽の生演奏がなく少し寂しい船出となりましたが、銅鑼の合図は今まで通りでした。向かい側には飛鳥IIが停泊中で、大さん橋の見送りの人々の中で、飛鳥IIの関係者が写真のような垂れ幕を用意し、にっぽん丸の出港を祝福していたのが印象に残りました。

船が動き出したちょうどその時、雲間から明るい日差しがスポットライトのように、にっぽん丸を照らしてくれました。



乗船時には、エントランスで顔馴染のクルーの皆さんが「お帰りなさい！」と温かく迎えてくださいました。船室には、私の研究テーマである「花毛布」が飾られており、伝統のおもてなしをこのような状況下でも続けてくださっていることに感動しました。

※毛布を折る時は感染防止対策として清潔な手袋を着用しているとのことでした。

クルーズのタイトル通り、食事は「秋の味覚」を堪能できる内容でした。おもに西日本と南日本から取り寄せた食材を使った料理は、にっぽん丸らしい繊細な味付けや盛り付けで楽しませてくれました。



1 日目の夜食には奄美大島名物の鶏飯が出ました。
ラウンジ「海」のティータイムは、スワンの形のシュークリームです。



船内イベントとしては、1日目の夜に庄野真代さんのコンサートが開かれ、三遊亭圓丸師匠の落語独演会が3日間毎日開催されました。夕食のテーブルでたまたま師匠と同席になり、落語にまつわるお話をうかがうことができたのも、今回のクルーズの楽しい思い出です。

2日目は清水港から出発する2つのオプションツアーが用意されており、私は大井川鐵道のSLに乗車できる「山のしずおか」を選びました。始発の新金谷駅と終点の千頭駅にある転車台、車窓から見える茶畑や大井川沿いの秋の風景、SL車内での車掌さん(自称「SLお兄さん」)の観光案内とハーモニカ演奏、千頭駅の様々な車両など、レトロな鉄旅の1日を過ごしました。



夕刻清水港に戻ると、富士山が見えました。晴天の日に凜とした姿を見せる富士山もいいですが、この日のように水墨画に薄紅をさしたような幻想的な富士山も素敵です。出港時には清水の皆さんのお見送りとともに、船のすぐ傍でたくさんの花火が上がりました。清水港も長い間クルーズ船の寄港が途絶えていたので、クルーズ再開で港に活気が戻ってくるといいです。



船旅と鉄旅両方の楽しさを味わうことができる充実した企画でした。にっぽん丸の皆様、素敵な時間をありがとうございました！